

～ 普通期水稲における今後の管理ポイント ～

①雑草の発生に注意しましょう。

今年も、田植は順調に行われましたが、一部で用水確保ができない等の理由により、初期除草剤の効果が十分に発揮できず、雑草の発生が見受けられます。雑草は生長すればするほど防除が困難となるため、できるだけ早期に防除を行うことが重要となってきます。ほ場をよく確認し、発生が見られた場合は対策を行いましょう。

(例)雑草発生ほ場



資材については、水稲栽培ごよみをよく確認し、ご使用ください。
※特別栽培米では、農薬の種類や使用成分に制限があるためご注意ください。
ご不明な点は、JAまたは普及指導センターへご相談ください。また、7月には各支所・地域にて水稲現地講習会を開催予定としております。日程等については、各支所にてご確認ください。

裏面には、いもち病・カメムシ類に関する情報を記載しています。

②いもち病の発生に注意しましょう。

「葉いもち病」は、**初発に防除を行うことが重要**です。田植え後圃場をよく観察し、発生を確認した場合は速やかに防除を実施しましょう。
※散布する農薬は稲作暦をご確認ください。

< 注意が必要な「いもち病菌」の感染環境 >

①感染に好適な温度

・平均気温が19℃～25℃

②発生しやすい圃場

・山陰などで朝露が乾きにくい。
・窒素成分が多く葉色が濃い。

③置き苗(補植用)が圃場にある

・置き苗に発生した「いもち病」が圃場へが蔓延する恐れがある。
・置き苗は早急に除去しましょう。



いもち病の病斑例

注意

特別栽培米は、使用薬剤に制限がありますので、稲作暦をよく確認して散布を行いましょ。不明な点はJAまたは普及指導センターにご相談下さい。

③イネカメムシ・斑点米カメムシの対策について

暖冬の影響で、カメムシ類の発生が例年より多いと予想されており、吸汁加害による収量や品質の低下が懸念されます。

特に「イネカメムシ」は、出穂期頃にはほ場へ飛来し加害するため、不稔粒や未熟粒が発生し、その対策として出穂期での防除が重要となります。また、斑点米発生防止として穂揃期の防除と合わせると、2回のカメムシ防除が必要になります。

今後の発生状況や防除時期については、稲作情報や現地講習会等で発信していきます。



イネカメムシ成虫